

八田美津創作人形展

ふるさとの風を運ぶ

春

私たちのふるさと・石狩・浜益・厚田に、待ち望んでいた春がやって来ました。
自然や伝統を大切に、心豊かに暮らしていた人々の春を楽しむ姿を生き生きと表現しました。



静かな花見



山菜の喜び



ゴム跳び



田植え・昼休み



前に進む田植えとコロ



馬耕プラウ



針仕事



開拓使リンゴを育てたニシン肥料



角胴・ニシン絞り



いかけ 鑄掛け屋



ばそり 馬籠の修理



紙芝居



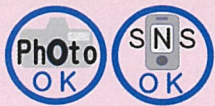
井戸端会議



教室



入学式



期間・時間
会場・主催

令和3年4月23日～5月30日 9時30分～18時00分
道の駅石狩「あいろーど厚田」(2階・郷土資料室)
住所 石狩市厚田区厚田98-2 TEL 0133-78-2300

ふるさとの春 こぼれ話

◆ 開拓使リンゴを育てたニシン肥料

浜益北部の幌には、たくさんの果樹園があります。浜益の果樹園は開拓使が明治10年に配布したアメリカ産のリンゴの苗木から始まりました。浜益でリンゴ生産が盛んになった秘密はニシンです。明治時代、ニシンのほとんどは食用ではなく、ニシン粕しめかすという肥料きたまえばねに加工され、北前船で本州に移出されて地域に莫大な利益をもたらしました。親方たちは当時は副業だった山の果樹園に、自分の漁場で作ったニシンの魚肥を惜しげなく与えました。



◆ 山菜の喜び

山菜シーズンの終わりごろ、保存食づくりが始まります。ワラビは干し、タケノコやフキは茹でて塩漬けにしています。採っても食べても、漬けても干しても楽しい。山菜はふるさとの春のかけがえのない喜びです。



◆ 浜益小学校の校名板

はまます郷土資料館に残る「濱益小学校」の校名額には「正三位侯爵菊亭脩季書」と揮毫者名が記されています。菊亭脩季は安政4年京都で関白鷹司輔照の子として誕生、開拓使御用掛として札幌育種場にかかわり、後に貴族院議員として立憲政友会幹事長を務めた人物です。地下鉄駅がある札幌の菊水は菊亭ゆかりの地名です。

浜益小学校は明治11年に開設された浜益郡教育所に起源がある北海道で有数の歴史を持つ学校です。浜益の発展衰退と学校制度変遷に伴って学校名は複雑に変化しますが、明治34年に新校舎を建設して浜益尋常高等小学校と改名した時に、菊亭脩季に揮毫を依頼したのです。「尋常高等」が略されているのを利用し、この校名額を作品に利用しました。本当はこの位置に掲示されていた校章は横にずらしました。

◆ 井戸端会議



水道が整備される前は、共同の井戸が人びとの生活を支えていました。ポンプで井戸水を汲み上げ、洗い桶で洗濯板を使って洗濯しています。物干し竿には洗い張りが立てかけてあります。母さんたちが集まると、働きながらも話が盛り上がります。今も残る「井戸端会議」という言葉の楽しさ。そんな言葉のゆかりとなった光景です。

◆ 前に進んで苗を植える浜益の田植え

浜益の水田は、明治20年には0町歩でしたが、30年3町歩、40年164町歩と、明治後期に急速に拡大しています。コロ（回転田植え定規）は、明治20年代に出現し、40年代に全国に広く普及

しました。コロで一定間隔に苗を植える正条植えによって除草や施肥の効率が上がり、生産性が飛躍的に高まりました。それまでの田植えは、後ろ向きに進んでいましたが、コロで付けた印に沿って植える正条植えが普及する明治後期になると、せっかく付けた印を見るために前に進むようになりました。

明治後期に始まり、コロで付けた印をたよりに前に進んでいく浜益の田植えは、今も浜益小学校の学校田に伝わっています。



◆ 柴巻型馬橋の修理



太い樫を蒸して曲げた台木の強度が強い馬橋の耐用年数は、農家で使うなら20年くらいでしたが、台木を支える柴巻などは5年に一度くらいは交換しました。冬に酷使して傷んでしまった大切な橋を心を込めて修理しています。

◆ 針仕事

八田美津さんは若いころ札幌で裁縫を学んで、和裁・洋裁・編み物を習得し、仕事にしました。浜益高校では技芸講師をつとめました。人形の衣装、特に和服の仕上げが美しく素早いのは、そんな技術がベースにあるからです。作品は冬仕事で傷んだ刺子のドンザを直す針仕事です。針箱や衣桁も懐かしいですね。



◆ ゴム跳び・ひっかけ跳び



ゴム跳びの場面に、ちょうどいいかなという元気そうな子が着物（和服）を着ていたの、美津さんに洋服を作ってもらうことになりました。制作メンバー石黒美香子、鈴木美子の2人で「私たちの子どもの頃は、ズボンでもスカートでも関係なく遊んでいたよね！」「スカートで跳んでいけるほうが昭和だね！！」と盛り上がり、作品ができました。

作品制作メンバー紹介



今回の作品制作メンバーは、道の駅石狩「あいりーど厚田」に常設展示している北前船ジオラマの制作者でもあります。

八田美津：浜益生まれ、浜益在住の人形作家。自身の記憶と取材した地域の歴史をテーマに、懐かしい人形を制作。

鈴木美子（八田美津次女）：はまます言葉で作品の背景を表現。

石黒美香子：北前船では小物づくり。今回は全作品の演出を担当。

石黒隆一：北前船で披露した木工技術を今回も全面発揮した職人。

石狩市郷土研究会（www.ishikari-kyoudoken.com）事務局長。